

私たちにできること 社員の取り組み編



01

新型コロナウイルス感染症の拡大に際し、JALグループは社会インフラを担う一員として、医療用貨物や生活物資の輸送などを続けています。世界が感染症に立ち向かうために、私たちにできることは何なのか。2回目となる今号では、JALグループ社員の取り組みや製作物についてご紹介します。

手作りマスクやフェースシールド

新型コロナウイルスの感染拡大を受け、JALグループは運航便数を大幅に減らしました。その結果、パイロット、客室乗務員、空港スタッフなど、フライトを支えていた人員に余裕ができました。この機会に業務マニュアルのブラッシュアップや社員教育など、フライトの安全性をより一層高める取り組みや、空港・機内での感染拡大防止の取り組みを行ってきました。そのうえでさらに、皆がそれぞれ

「今私たちにできること」を考えた結果、多様な活動が生まれています。

例えば国内外の空港スタッフは、業務の合間や在宅勤務の時間を活用し、子ども用マスクを製作。5200枚以上を空港周辺の自治体や保育園などへ寄贈しました。また、普段空港で使っているビニール袋を利用した感染対策用ガウンを約3000着製作。医療物資が不足するなか、寄贈先の医療従事者の皆さまにご活用いただいています。

整備士は、技術力を生かしてフェースシールドを製作。



03

この動きは全国に広がり、これまでに約1200個を自治体や病院などに寄贈いたしました。

ほかにもさまざまなアイデアが

「操」では、特別ゲストとしてNHKの「おかあさんといっしょ」で第11代体操のお兄さんを務めていた小林よしひささんにボランティアでご参加いただきました。

このほか、パイロットによる「JAL空飛ぶ合唱団」は、医療従事者を応援する「#最前線にエールを何度でも」プロジェクト（日本赤十字社）に賛同し、YouTubeに歌の動画を投稿しています。

医療や農業の分野でも

直接的な人財派遣の動きもあります。人員が逼迫する医療現場を支援するべく、医療資格を持つ社員が医療や介護の現場で働ける医療兼業の仕組みを導入し、客室乗務員3名が保健所や介護施設などで活動しました。また成田や函館では、人手不足となっている農家での農作業支援を行っています。

JALグループはこれからも「今私たちにできること」を実行していきます。S

2020年4月から新制服となったJALグループでは、旧制服を活用した取り組みも行っています。新千歳では旧制服の布地を使ってエコバッグを製作し、社内募金に協力した社員にプレゼント。ビニール袋などのプラスチック使用量を削減するとともに、集まった金額を千歳市に寄付しました。

ユニークな取り組みとしては、JAL公式SNSでの社員手作り動画の配信があります。整備士による「動画de航空教室」では、飛行機の仕組みを紹介。大人も楽しめるマニアックな内容です。客室乗務員は、在宅勤務などで固まった体をほぐしていただくため、「簡単ストレッチ」を紹介しています。「JAL整備士による本気の！ラジオ体操



第11代体操のお兄さん
小林 よしひささん



06



05



04

01.02.子ども用マスクを保育園に寄贈。03.04.フェースシールドと感染対策用ガウン。シールドの材料には航空機整備資材の端材や航空日誌の亚克力下敷きを再利用。05.旧制服をエコバッグに仕立てた新千歳のスタッフ。06.「何度でも」をリモート合唱する「JAL空飛ぶ合唱団」。07.「JAL整備士による本気の！ラジオ体操」。

07



2015年9月、全国連加盟国(193カ国)により「持続可能な開発目標(Sustainable Development Goals: SDGs)」が採択されました。2030年までに、貧困や気候変動、平和的社会などの17の目標を達成すべく、JALグループも社会の課題解決に取り組んでいきます。

今回のテーマに当てはまる目標

